

アルゼンチン・タンゴこそが本物の”ワールドミュージック”

バンドネオン奏者 小松亮太さんインタビュー

タンゴギタリストの父、タンゴピアニストの母を持ち、「バンドネオンはまさに運命的存在。」と語るバンドネオン奏者 小松亮太さん。八王子公演を前にたっぷりとお話を伺いました。

1930年代ドイツ製の
バンドネオンを持つ
小松亮太さん



— バンドネオンの魅力とその希少性について教えてください。

バンドネオンは非常に珍しい楽器で、タンゴ愛好者にとっては憧れの対象です。特にアルゼンチンの80〜90歳世代の奏者たちは、その技術の高さで知られていましたが、現在その技術や教育はほぼ失われつつあります。バンドネオンは豊かな音の雰囲気とミステリアスな魅力を持ちますが、その希少性ゆえに、少し演奏ができれば「プロ」と名乗ってしまう人が増えているのが現状です。実際には、深い技術と知識が必要で、表面的な演奏だけではその本質には届かないのです。今後は、真にバンドネオンの技術を磨く奏者が育ち、その魅力が広まっていきたいです。

— バンドネオン奏者として、タンゴ音楽の面白さや魅力は何だと思っていますか？

タンゴは非常に知的な音楽です。これまで「情熱の」「哀愁の」といった表現で多く宣伝され、そのようなイメージが先行してしまっています。ですが、実際にはそのような形容詞ではとても表せない奥深い音楽です。タンゴは、クラシック、ジャズ、ブラジル音楽、などの多様な音楽ジャンルと、さまざまな国の音楽が融合した、いわば本物の「ワールドミュージック」。特に興味深いのは、ブエノスアイレスで自然発生的に生まれた音楽が、クラシックの奏者やジャズミュージシャンによって洗練されたこと。またイタリア人、スペイン人、ドイツ人など移民の感覚が混ざり合ったことで、非常にユニークな音楽として形成されました。

現在、バンドネオン奏者が4人揃い、他の楽器と共に演奏するオルケスタ・ティピカは非常に希少です。この大規模な編成を維持するのは難しいですが、私たちは真のタンゴを体験する数少ない存在です。タンゴには6つのリズムパターンがあり、それぞれのアレンジメントには独自の魅力があります。ピアノ、コントラバス、バイオリンの演奏スタイルはクラシックやジャズとは異なるものの、共通点もあります。また、タンゴのベースラインはイタリア・バロック時代の通奏低音の考え方も見られます。このように音楽的な深みを垣間見ることが出来ます。

— 八王子公演に向けての意気込みをお聞かせください。

現在、本場アルゼンチンのタンゴ界は元気がなく、若手奏者の育成も進んでいません。だからこそ私たちは、本場の演奏を超えるクオリティで、タンゴの真髄をお届けしたいと思っています。音楽を真剣に追求した演奏を楽しんでいただくと断言できます。また、ゲストの

オルケスタ・ティピカとは...

バンドネオン3〜4人、バイオリン3人以上、ピアノ、コントラバスというアルゼンチンタンゴの黄金期を象徴する楽器編成のこと。現在では本場でも目にすることは少なくなり、小松亮太さんはこのオルケスタ・ティピカ復興に取り組む数少ないバンドネオン奏者です。

バンドネオンとは...

ボタン式のアコーディオンもありますが、バンドネオンとは全くの別物です。形状で見ると、縦長がアコーディオン、正方形がバンドネオンです。アコーディオンはお洒落な音の特徴ですが、バンドネオンは感情を直接的に表現できるのが魅力です。

公演の詳細は
8ページをご覧ください！

八王子祭 Hachioji Geijutsusai

芸術 & Hachioji Arts Journey

アートで地域の魅力を発信する
『八王子芸術祭』
& 『Hachioji Arts Journey』
の活動をご紹介します！

『八王子芸術祭』は、市域の広い八王子市内を5つのフィールドに分け、2年ごとに10年かけて地域を巡る、“旅する芸術祭”です。約1年間かけて地域をリサーチし、その翌年に、地域の特色から生まれた作品・イベントを展開します。そして、『Hachioji Arts Journey』は、次の芸術祭までの期間をつなぐ継続的なプロジェクトです。アートが人と地域、多様な文化を結びつける確かな土台となって、新たな八王子の未来へとつながることを目指しています。第1期(2022-23)は、高尾・恩方周辺地域を舞台に、『自然に潜む美しさを探る旅』をテーマとして開催しました。第2期(2024-25)は中野上町〜石川・大和田周辺地域が舞台。地域の皆さんやアーティストの皆さんと一緒に、新たなアートの旅に出かけます。

この芸術祭を地域の方々と一緒につくっていききたいという思いから、現地におもむき、半分開かれた企画会議“アートサロン”を定期的に開催することにしました。

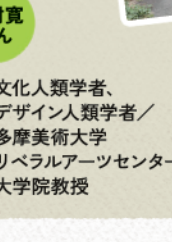
八王子芸術祭プロデューサー
(公財)八王子市学園都市
文化ふれあい財団
米倉 崇



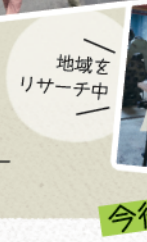
2025年芸術祭に向けて アートサロンを開催！

芸術祭の テーマを探し、 地域の魅力に アプローチ！

Hachioji Arts Journeyの一環として、中野上町の奥田染工場 衣類計画室にて、第1回アートサロンが開催されました。文化人類学者の中村寛さんをパネリストに迎え、前回の芸術祭に参加した画家の竹谷嘉人さんと関係団体の職員、地域に詳しい方々が集まり、今回のテーマやミッションを模索しました。



文化人類学者、
デザイン人類学者／
多摩美術大学
リベラルアーツセンター
大学院教授



地域を
リサーチ中

今後も次々開催予定！

ホームページ



Instagram

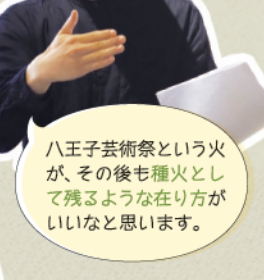


中野上町の空き家を拠点として活動するアーティストが増えるといいですね。住人も協力して、展示専用の会場をつくっては。



高須賀文子さん
(株)トリッキー
(デザイン会社)

竹谷嘉人さん
画家



八王子芸術祭という火が、その後も種火として残るような在り方がいいなと思います。

地域を巡り発掘することで、新たな発見も。八王子芸術祭が街づくりの起点になってほしいです。



文化人類学者、
デザイン人類学者／
多摩美術大学
リベラルアーツセンター
大学院教授

短編戯曲を書くための小さなゼミ in 八王子
〜屋根裏ハイツのシナリオ教室〜発表会

■ 3月20日(木・祝)予定
公募で集まった参加者が八王子市大和田の街を拠点に作ったオリジナル脚本を、舞台俳優が読み上げる“リーディング発表会”を一般公開で行います。

Hachioji Arts Journeyの様子は、公式HP、Instagramにて発信していきます。今後、八王子芸術祭と一緒に盛り上げてくださるサポーターさんの募集も予定しています！ぜひチェックしてみてください。▶▶▶

Hachioji Arts Journey
さまざまな企画が進行中！